

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は109円を挟んでの振幅か

[5月24日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月17日～5月21日				
	始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	109.31	109.50(17)	108.57(19)	108.73	-0.62	
ユーロ・ドル	1.2135	1.2245(19)	1.2126(17)	1.2235	+0.0094	
=====						
国内株・金利 / 米国株・金利						
	終値		前週末比		終値	前週末比
日経平均株価	28,317.83	+233.36	日本10年債利回り	0.085	-0.004	
ダウ平均株価	34,084.15	-297.98	米10年債利回り	1.625	-0.003	
=====						

<来週の主要経済統計等>

- 24日 NZ第1四半期小売売上高
- 25日 独第1四半期国内総生産(GDP) 確報値
  - 独5月ifo景況感指数
  - 米3月住宅価格指数
  - 米3月S&Pケースシラー住宅価格指数
  - 米4月新築住宅販売件数
  - 米5月消費者信頼感指数
- 26日 NZ4月貿易収支
  - NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
  - 日本3月景気動向指数改定値
  - 米MBA住宅ローン申請件数
- 27日 米4月耐久財受注速報値
  - 米第1四半期国内総生産(GDP)改定値
  - 米新規失業保険申請件数
  - 米4月中古住宅販売成約指数
- 28日 日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率
  - 米4月個人所得・個人支出
  - 米4月個人消費支出(PCE)デフレータ
  - 米5月シカゴ購買部協会景気指数
  - 米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
  - バイデン米大統領が2022年度(21年10月-22年9月)予算教書を発表
  - G7財務相・中央銀行総裁会議(オンライン)

【前回のレビュー】米国ではワクチン接種の拡大で、経済活動が徐々に正常化に向けて動く、経済指標の改善や物価の上昇につながる可能性が高まる。そうした中、ドル円は底堅く推移して、109円台を固めて再び110円に乗せる可能性が出てくるとした。

【ビットコインの乱高下に振り回される】

19日にはビットコインなどの暗号資産が急落した。ビットコインは一時3万ドルに迫る場面も見られた。4月12日には6万5000ドルに接近する水準まで上昇したものの、一時は高値から半値以下の水準まで下落した。19日の急落の背景には中国当局による規制強化の報道などがある。また、最近の下落の背景には米テスラのイーロン・マスク最高経営責任者(CEO)はビットコインの電力消費の大きさに懸念を示したことなどがある。

ビットコインの急落などが投資家のセンチメント（市場心理）を悪化させ、19日の米国株は3日続落となった。NYダウは一時下げ幅が500ドルを越す場面も見られたが、ビットコインの下げ止まりの動きを眺めて、NYダウも下げ渋りを見せて164ドル安で引けた。

この日のドル円はビットコインの急落やNYダウの大幅安を受けて、リスク回避の円買いの動きとなって、ドル円は一時108.57近辺までドル安円高が進行した。ビットコインやNYダウが下げ渋ると109.20～109.30台まで値を戻した。

20日にはビットコインが反発したことなどから米国株が反発に転じている。ドル円は米長期金利の低下などを受けて、109円台前半から108.75付近まで下落して、21日には108円台後半で推移している。

19日に発表された4月27～28日開催分の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨では、米国の経済は米連邦準備制度理事会（FRB）の目標にはほど遠いとの見方で一致しているものの、一部のメンバーが量的緩和の縮小を検討する必要性を示唆した。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長はこれまでに量的緩和の縮小（テーパリング）の「議論を始めるのは時期尚早」との見解を繰り返してきたが、一部では早期のテーパリング観測にもつながっている。19日に米10年債利回りは1.67%台まで上昇している。ただ、5月の米フィラデルフィア連銀景況指数が低調な結果となったことなどから、米10年債利回りは1.62%台まで低下している。

米10年債利回りは1.60～1.70%台での推移となっており、1.7%近辺では下げに転じやすくなっている。4月の消費者物価指数や生産者物価指数は予想を上回る強い結果となったものの、それ以外の米経済指標には弱めのものも目立つ。

3日発表の4月の米ISM製造業景況指数、5日発表の4月の米ISM非製造業景況指数はいずれも前回や市場予想を下回った。7日発表の4月の米雇用統計では非農業部門雇用者数は市場予想の前月比100万人増に対して、26.6万人増にとどまり、予想を大幅に下回った。

12日発表の4月の米消費者物価指数、13日発表の4月の生産者物価指数は予想から上振れした。14日の4月の米小売売上高、4月の米鉱工業生産、5月のミシガン大学消費者信頼感指数速報値は予想から下振れしている。18日の4月の住宅着工件数・建築許可件数、20日の5月の米フィラデルフィア連銀景況指数も予想を下回った。

米経済指標は物価指標を除くと予想から下振れしているケースが多く、米長期金利の上昇やドル買いにつながりにくくなっている。ドル円は108円台半ばから109円台半ばでの推移となっている。一時的なインフレ圧力の高まりだけでは継続的なドル買いにつながりにくく、ドル円は109円を挟んでの振幅が継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、108.00～110.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に米3月住宅価格指数、米3月S&Pケースシャー住宅価格指数、米4月新築住宅販売件数、米5月消費者信頼感指数、26日に日本3月景気動向指数改定値、27日に米4月耐久財受注速報値、米第1四半期国内総生産（GDP）改定値、米新規失業保険申請件数、米4月中古住宅販売成約指数、28日に日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率、米4月個人所得・個人支出、米4月個人消費支出（PCE）デフレーター、米5月シカゴ購買部協会景気指数、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルは堅調推移が継続か】

ユーロドルは上下に振幅しながらも上昇基調で推移しており、1.22台に乗せてきた。欧州でのワクチン接種の拡大により、各国で行動制限の緩和措置が進んで、経済活動が正常化に向かいつつある。米長期金利が落ち着きを見せており、一方的なドル買いにつながりにくいこともユーロドルの上昇に寄与している。こうした流れが継続して、

ユーロドルは引き続き堅調な動きが続くとみられる。  
ユーロドルの目先の予想レンジは1. 2 1 0 0～1. 2 3 5 0ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日にNZ第1四半期小売売上高、25日に独第1四半期国内総生産（GDP）確報値、独5月IFO景況感指数、26日にNZ4月貿易収支、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。